

中緑が丘

自主
健康
友愛



←学校HPは
こちら

「知る」から「考える」へ 森林環境教育で未来を考える



8月31日、グリーンパワーインベストメントの皆様を講師にお迎えし、森林環境教育講演会を行いました。

講演では、エネルギーとは何かという身近な話題から、再生可能エネルギー、風力発電、地球温暖化、森林や生き物との共生について、写真や動画、データを交えながら学びました。また、岩泉町の豊かな森林や自然環境にも触れ、「私たちの暮らしと自然をどのように両立させていくか」を考える機会となりました。

講演後のアンケートには81人が回答。そのうち、70人(86.4%)が「再生可能エネルギーへの関心が高まった」と答えました。

生徒の感想からは、「風力発電について詳しく知ることができた」という学びだけでなく、「森林を守ることの大切さ」「イヌワシなどの生き物との共生」「人間の生活と自然環境のバランス」など、関心が広がっていることが分かりました。

今回の講演は、知識を得るだけの時間ではありません。「岩泉の豊かな自然をどう守るか」「エネルギーをどう選択するか」「これからの岩泉をどんな地域にしていくか」という問いを、生徒一人一人が持つきっかけとなりました。

今後は、各学年の総合的な学習の時間等と関連させながら、1年生は「岩泉の森林の豊かさを知る」、2年生は「森林との関わり方を知る」、3年生は「再生可能エネルギーと森林の共生を考える」学びへと発展させていきます。

「地域を知り、体験し、問いをもち、未来を考える。」

今回の学びを、岩泉の未来を担う生徒たちの探究へとつなげていきたいと思います。

TIVoランド、本格オープン

～地域の声を生かし、中学生がつくる子どもの遊び場～

9月13日、岩泉中学校の生徒ボランティア団体「TIVo GROUP」が企画・運営する「TIVoランド」が、本格オープンしました。当日は、地域の子どもたち約60人が来場し、会場は子どもたちの笑顔と歓声でいっぱいになりました。

8月のプレオープンでは、利用した保護者の皆様からいただいた意見や要望をもとに、生徒たちが運営方法や遊具の配置、安全面などを見直しました。また、岩泉電工様からは、新たなエア遊具も寄贈していただきました。単に「やって終わり」ではなく、利用者の声を受け止め、改善し、次の実践につなげる。今回のTIVoランドには、そんな生徒たちの主体的な姿勢が表れています。



【岩泉電工 寄贈エア遊具2】



【TIVoランド】

当日は15人の中学生がスタッフとして参加。会場準備、受付や見守り、遊びのサポートなどを担当し、小さな子どもたちに優しく声をかけながら、一緒に遊ぶ姿が見られました。さらに今回は、「こども食堂あどがんせ」とのコラボレーションも実現し、3人の中学生が、調理や受付、配膳などを担当しました。



【こども食堂 あどがんせ】

「地域貢献したい」「地域のために、自分たちにできることは何か。」そんな問いから始まった生徒たちの挑戦が、地域の皆様の協力によって一つの形になりました。子どもたちの笑顔を直接見ることで、中学生にとっても「自分たちの行動が地域の役に立っている」という実感につながったことと思います。

これからも中学生、利用した保護者の皆様、そして地域の皆様と一緒に子どもたちの笑顔が生まれる場所として育んでいくことを願っています。

学び方を考える

「インプット」と「アウトプット」

こんな学習をしよう！



インプットとアウトプットの黄金比は、3:7。

インプット時間の2倍近くアウトプットに費やそう！

2週間に3回使った情報は、長期記憶される

人間の脳は「重要な情報」を長期記憶として残し、「重要でない情報」は忘れるようにつくられています。

脳に入力された情報は「海馬」というところに仮保存されます。その期間は2～4週間です。海馬の仮保存期間中に、その情報を何度も使われると、脳はその情報を「重要な情報」と判断し、「側頭葉」の長期記憶に移動します。

「情報を使う」というのは、アウトプットすること。その情報を「話す」「書く」ことで、長期記憶に移動されるのです。

(引用：アウトプット大全)

脳が記憶する仕組み

海馬【記憶の仮保存場所】⇒2～4週間



側頭葉【記憶の金庫】⇒長期記憶

「話す」「書く」を3回繰り返して、情報を記憶として定着させよう。